

いざ土づくり! 美味しい富山を届けよう!



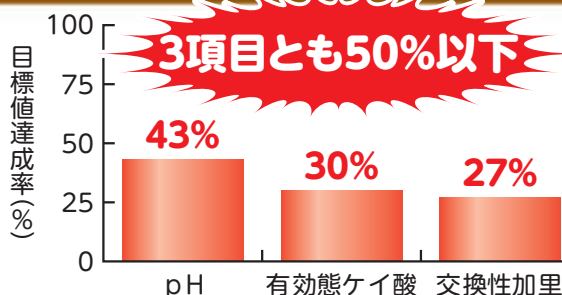
温暖化等の気候変動に打ち勝つ米づくり

①土づくり資材の施用、②有機物の施用、③秋耕の実施により、収量・品質を確保しましょう!

県内水田の土壌成分の目標達成状況

(農業研究所 定点調査:令和元~4年)

- 県内の水田の多くは、目標に比べ、**pHが低く、有効態ケイ酸・交換性加里が少なくなっている。**
- 特に、**交換性加里が目標に達しているほ場はかなり少ない。**



1 土づくり資材の施用 継続して確実に施用しよう!

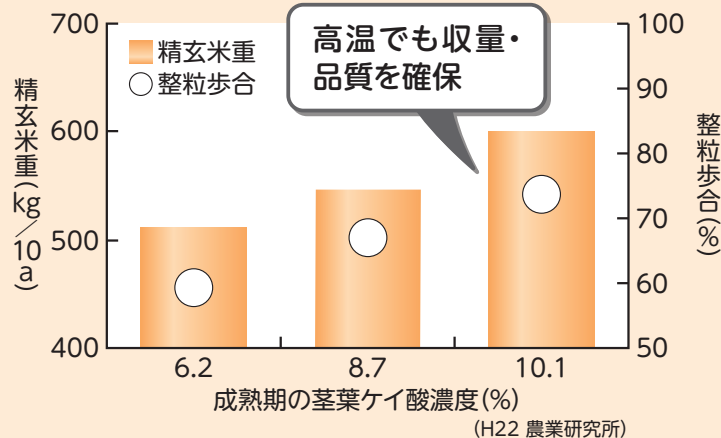
※資材・施用量等については最寄りのJAにご相談ください。

富山県内の主な土づくり資材はこちら▶

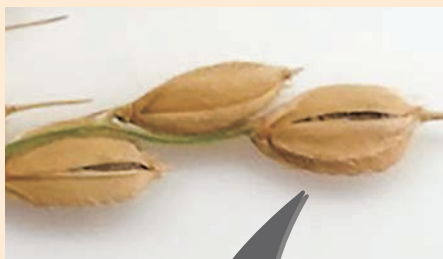


1 ケイ酸の補給

光合成能力の向上



割粃の発生抑制



割粃が発生すると斑点米カメムシ類による被害が助長されます。

ごま葉枯病の発生抑制

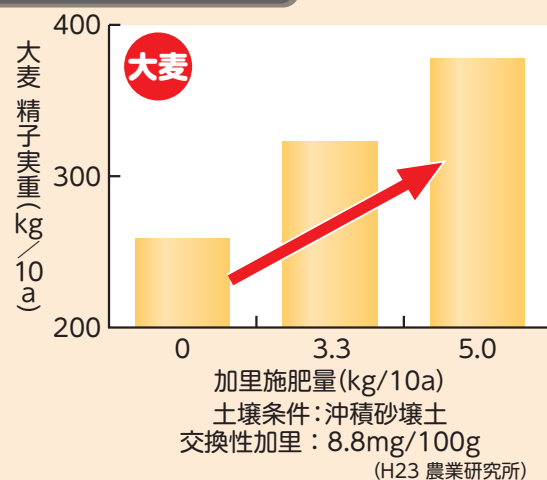
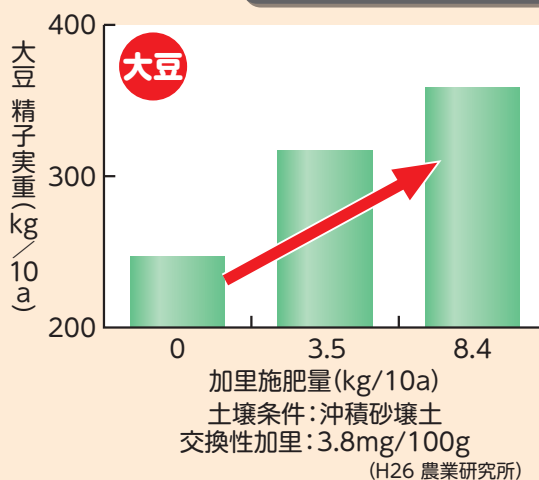
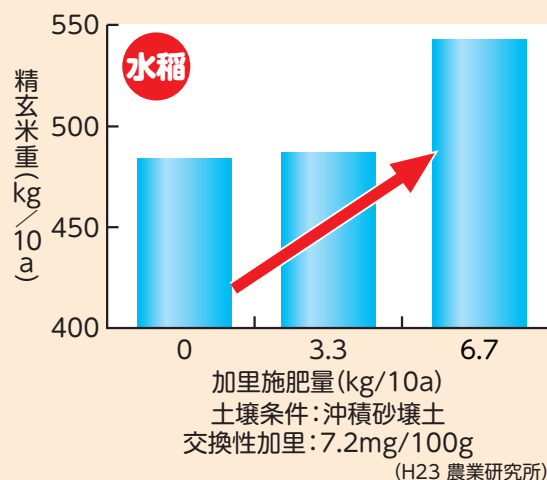


ケイ酸に加え、加里、鉄、マンガンを含む資材を施用しましょう。

2 加里の補給

水稻・大豆・大麦ともに収量UP

加里は、光合成に關与する重要な成分です。作物の成長を助け、収量の向上が図れます。



3 適正pH(6.0~6.5)への誘導

大麦・大豆の安定した生育・収量の確保や病害・雑草の抑制等

2 有機物の施用

1 緑肥作物の効果

① 土壌物理性の改善

- 腐植の増加、土壌の通気性・透水性・保水性が向上

② 後作物の収量・品質の向上効果

- 夏作物あと水稻→白未熟粒の発生抑制
- ヘアリーベッチあと大豆→収量の増加、しわ粒の発生抑制

③ 後作物での減肥と環境保全効果

- 後作物の窒素供給源となり、基肥の減肥が可能
- 地力の消耗や雑草を抑制、斑点米カメムシ類の発生抑制
- 景観の形成にも有効

◆ 播種とすき込みの目安

効果	作物名	播種時期	播種量 (kg/10a)	すき込み時期の目安
窒素供給	クロタリリア	6月上旬 ～8月上旬	5～9	普通種:播種後50～70日 広葉種:播種後60～80日
	ヘアリーベッチ	水稻刈取後 ～10月中旬	3～5	後作物(大豆)の 播種日の1～2週間前
土壌物理性改善	ソルガム	6月上旬 ～8月上旬	4～6	出穂期前後 (播種後60～70日)
	エンバク	秋播:9月下旬 ～10月中旬 春播:3～5月	8～15	出穂後、早めにすき込む 後作水稻では、遅くとも代かきの 2週間前までに実施

夏作物



クロタリリア



ソルガム

冬作物



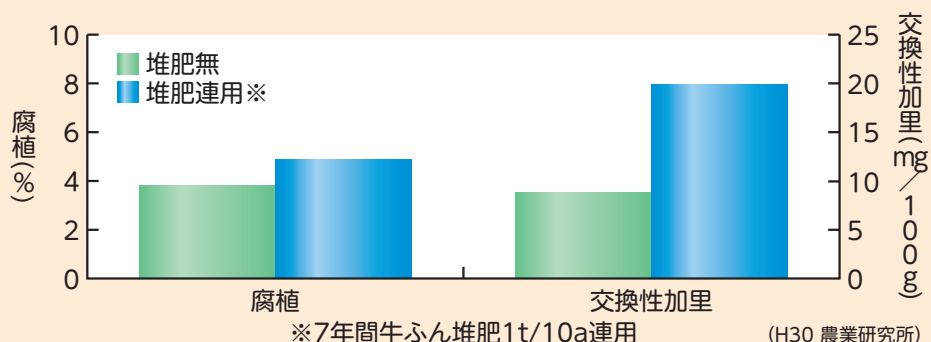
ヘアリーベッチ



エンバク

2 堆肥の効果

- 牛ふん堆肥を連用すると土壌の腐植含量が増加
→土壌肥沃度が向上、土壌物理性も改善
- 土壌中の交換性加里も増加



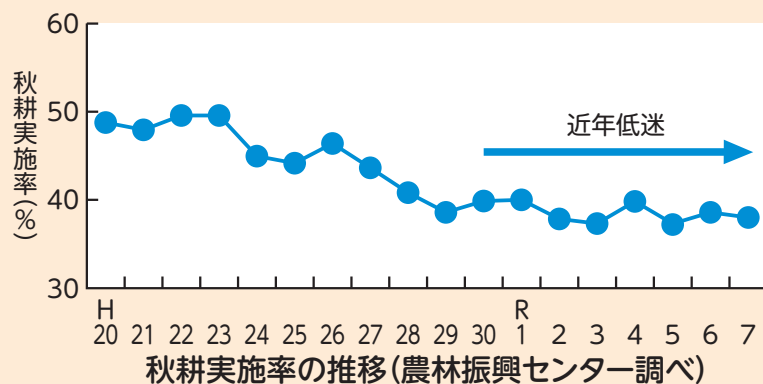
3 秋耕の実施

1 秋耕の効果

- 稲わらや籾殻の腐熟を促進
→稲わらや籾殻に含まれる窒素やケイ酸分を土壌に還元する。
→翌年の田植後のわきの発生を防ぐ。
- ひこばえの発生を防止
→斑点米カメムシ類、猿・イノシシの餌を減らす。
→刈株に生息するニカメイチュウの越冬数を減らす。
→翌年の漏生稲の発生を防ぐ。

2 秋耕の方法

- 腐熟のための地温が確保でき、ひこばえが出穂する前の9～10月に実施する。
- 水稻収穫後、深さ10センチ程度の浅めの耕起とする。
- 稲わら等の腐熟を促進するため、溝を設置し排水を促す。



秋耕で稲の害虫や獣類の増殖を防ぐ



ひこばえを食べるイノシシ